

調査内容

(1) 実施日 平成26年4月22日(火) (2) 対象 第3学年 3学級 90名

全国学力・学習状況調査は、国語・数学ともに「知識」に関する問題を主としたA問題と「活用」に関する問題を主としたB問題の2つがあります。A問題、B問題ともに国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項に、数学は、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域に設問ごとに分かれています。

教科調査結果の分析より

【国語科の傾向】

平均正答率をみると、国語Aは、県を上回っているが、全国に届いていない。無回答が少なくなっている。また、国語Bは市と同程度で県・全国を下回る。

【課題①】 語彙数が少なく、文章表現する力が不足している。調査では、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい」割合が高い。

【課題②】 語句の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に置き換えることが課題である。

【課題③】 文章の構成や表現の仕方等について、根拠を明確にして自分の考えを書けることが課題である。

【数学科の傾向】

平均正答率をみると、数学Aは、市と同程度で、県・全国を下回っているが、証明等では無回答が少なくなっている。また、数学Bは、市を上回り、県・全国を下回っている。

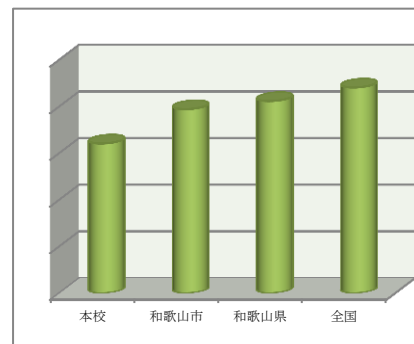
【課題④】 基本的な一次方程式、連立方程式を解く技能の理解に課題がある。

【課題⑤】 比例、反比例、一次関数など関数の理解に課題がある。

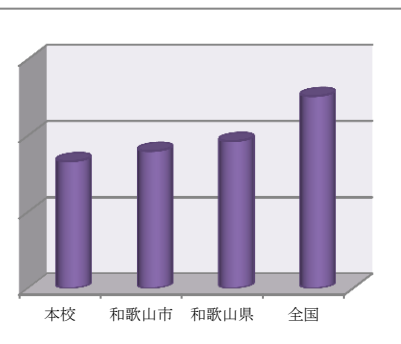
【課題⑥】 図形の証明に課題がある。

全国学力・学習状況調査では、国語・数学の学力調査の他、生徒質問紙調査があります。この質問紙調査では、生徒の学校や家庭における学習状況や各学校での指導の様子がわかります。

【質問紙調査の傾向】



家で学校の宿題をしている

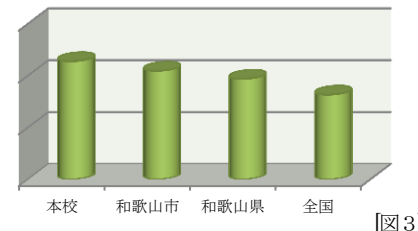
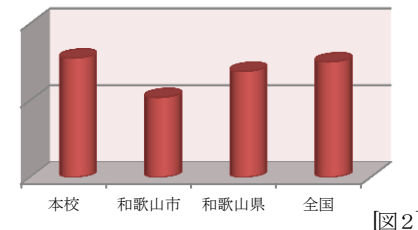
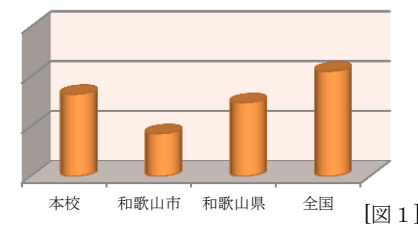


家で学校の授業を復習している

○家庭学習について

1. 1日の学校外での学習時間が長い。
2. 予習をしている生徒の比率は高いが、復習や宿題をきちんとできていない。  
全体的に学習習慣、基本的な生活習慣が身につけていない傾向にある。

○生徒の授業の受け方について



1. 「本やインターネットを利用してグループ学習をおこなった」生徒は、全国を上回っている。ICT利活用の成果であると考えられる。
2. 「1・2年生で自分の考えを発表する機会」[図1]は、県を上回っている。また、「1・2年生の生徒間で、話し合う活動をおこなってきた」[図2]生徒は、全国を上回っている。グループ学習を各教科でおこなってきた成果であると考えられる。
3. 「1・2年生で学習の内容を振り返る活動をおこなってきた」生徒は、県とほぼ同じで、全国を下回っている。家庭学習で復習等をおこなっている割合が低いためと考えられる。
4. 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う」生徒は、全国に対し高い。文章を書くための語彙不足が大きな原因であると考えられる。

○スマートフォンや携帯電話及びテレビゲームの使用状況(2時間以上)について[図3]

1. 市・県・全国を上回っている。スマートフォンや携帯電話、テレビゲームへの依存率が高い。

調査の結果を受けて本校が、具体的に取り組んでいくこと。

○基本的生活習慣の指導

- ・和歌山市教育委員会の作成したリーフレットを配付し家庭での「早寝」「早起」「朝ご飯」の徹底を目指す。

○国語の課題の解決のために

- 【課題①③】 視写をおこなう機会を増やし、語彙力を高め、文の構築力を向上させる。
- 【課題②】 個人の読解力に応じた読書を指導する。「朝読」「うち読」を積極的に取り組む。

○数学の課題の解決のために

- 【課題③④】 補充学習を活用し、基礎基本の徹底をおこなう。
- 【課題⑤】 図形の問題を数多くさせ、証明等の形式や書き方を習得させる。

○その他

- ・「家庭学習の手引」で、学習の方法等について習得させ、家庭学習の充実を図る。
- ・ICT等を活用し「わかる授業」をすすめる。
- ・補充学習を週5日実施し、基礎基本の定着を図る。

具体的な取り組み

1. 授業では双方向(グループ学習、発表)の授業を推進する。
2. 生徒に授業の復習を定着させるよう宿題等の工夫を図る。
3. 【国語】読書の推進。「読み聞かせ」等の実施。
4. 【数学】計算力の強化。
5. 基本的生活習慣の定着に向け家庭との連携を図る。
6. スマートフォン、携帯電話の使用について家庭との連携を図る。

